

「挽歌」対訳

「から」「ので」を用いる日本語原文とその中国語対訳

注：分類欄に記載されている記号は次の意味を表す。  
A=「原因・理由を表すもの」、B=「接続機能を持つもの」、C=「無標」

原文		訳文				
P	会話文	地文	P	会話文	地文	対訳
6		煙草を買わなければならない。わたしが家を出たのは煙草を買うためであった*から*。	2		動沢識 <sup>ㄟ</sup> 、厘電壇 <sup>◆</sup> 祥頁 <sup>◆</sup> 篠阻折 <sup>ㄟ</sup> 。	B
6		わたしの家の四人の家族のうち、わたしと同様祝日や日曜日に無関心なのは父だろう。でも父は、ときどき「手形の期限が切れる」などとあわてている*から*、わたしよりも目付けを覚えていない。	2		社戦膨箭繁嶺、捐厘匯劔斤准晩才巔晚町音譜仇議寄埃宴幻牌。辛頁幻牌音扮仕嫻嫻仇栖匯蔭 <sup>ㄟ</sup> 尙同欺欺阻！”◆咀緩◆刁協曳厘芝誼晚豚。	A
6		ばあやばあ、几帳面な性格だ*から*、カレンダーを毎朝めくっている。	2		唾秃群並匯某音攻、爺爺靈貧嶽晚煽。	C
7		弟の信彦は高校へ行っている*から*、いつがお休みかということ、ちゃんとわかまえている。	2		官宮供列屎廷互嶺、係単斤採晚俚運匯陪屈壹。	C
9		「ご飯と味噌汁食べたらどうですか？好き嫌いばっかする*から*、目玉だけ大きくて痩せっぽちなんですよ…」	4	“政傾才寄輯明奕担叙？析頁棄景腫保議，辛勤保誼哈複匯斤寄潔帷僅……”		C
16		わたしは家に帰っても、どうにもならぬことを知っていたし、わたしが今まで一人で我慢してきたのだ*から*、一人で医者に行つて処置せねばならないような気もしたのである。	10		厘岑祇指社勿梅採音阻黙、宸參念祥匯岷匯倅繁毅紛，宸指倅鏡係肇匱伏推載侃崔嘉佩。	C
18		あの日、校門を出るとき、泣きだしそうになったのは、それがわたしにとって、Auld Lang Syne を歌うべき日であった*から*だろう。	11		佑電不擅扮厘◆俚參◆餓泣渠節，頁◆咀篠◆推銷斤厘栖倅頁吟乎蟹 <sup>ㄟ</sup> Auld Lang Syne <sup>ㄟ</sup> 議晚倦。	A
18		「兵藤君、兵藤君……」と、彼は絶えずわたしの名を呼んだ。それ以外の言葉を忘れてしまったように、彼は、わたしの右側に座っていた*から*、肩を抱いていた掌をときどき撫でた。わたしの眼からも涙があふれだした。	11		“汚儲，汚儲……”厝音僅出厘議兆付，控No梨阻緩翌艶議三。厝伺壓厘囑迦，則彭厘主芋議返乏主銷和，音扮視厘電諒初議志越。	B
19		わたしの眼からも涙があふれだした。わたしは知っている……。先生が泣いたのは、わたしを好きなのだ*から*だと考え、	12		厘議潔晚勿喊電阻節邦。厘岑祇，岑祇祈弗頁◆咀篠◆浪欺厘◆嘉◆囚。	A
24		しかし、この日はじめてくわえた煙草は、べつに不味くもなかった。わたしは、おもてで、太陽の下で煙草を吸ったことなどなかった*から*、なんだか愉しくて、手もつかわず、くわえ煙草の気取ったポーズをつかった、	16		徹宸爺及匯肝巨議 <sup>ㄟ</sup> ，旺音奕担壯與。厘珊質栖短翌翌中溱剩久和籬伯 <sup>ㄟ</sup> ，狀誼載控螺，音喘返，哈磁弛豐濃商畏電多恬議廉 <sup>ㄟ</sup> 個米。	C
25		真赤なドレスを着た三、四歳の女の子と女の子の父親らしいグレイのカーデガンをはおった痩せすぎの男だ。わたしが気づいたのは、女の子の声を聞いた*から*である。	16		匯倅刊崎袖袖袖端議眉膨模 <sup>ㄟ</sup> 湖頤，匯倅幻牌斤劔議簡影子弼斤諸谷世議保 <sup>ㄟ</sup> 議規僅。厘廣吭欺磨斷，◆頁咀篠◆油帶 <sup>ㄟ</sup> 湖頤議傍三路。	A
32		彼の柔和ともひややかともつかぬ眼差しは物干台のほうではなく、芝生のブランコの辺りに落ちていた。わたしは、彼が、彼の妻らしい女を見ないので、きつとわたしが傍に立っているの、いくらか恥ずかしい*から*なのだろう、と察した。	22		厝椎音岑頁悲才珊頁絕記議朕肤高短啞鯛壓噴甘岬貧，遇誘壓阻拍認推戰。厝◆俚參◆音心椎No厝溱溱厝劔議湖僅， <sup>ㄟ</sup> 駅◆頁咀篠◆厘嬭壓都円，謹音噴泣音控吭房。	A
37		二年前、手の悪いわたしが、仕事の内容も考えずに久田幹夫の誘いを簡単に承知したのは、当時彼がわたしの唯一の友人であった*から*だ。	26		曾定念，返音瘦宴議厘◆俚參◆短深打垢恬坪否祥匯箭基吟阻消弥孤健，◆頁咀篠◆輝扮厝頁厘立匯議濤噴。	A
37		「少なくないさ、金のかかるのは絵具代だけなんだ*から*。」	26	“音富晴，雜熟議音◆祥頁◆較醬啄！”		B
38		久田幹夫が、母親と一緒にわたしの家に遊びに来たのは、まだ母が生きていた時分であった*から*、わたし達が小学校の四、五年であったことだ。	27		消弥孤健捐厝鏡牌栖屋社螺，頁厘鏡牌珊壓弊議扮昨，◆咀緩◆厘斯勿祥頁 <sup>ㄟ</sup> 儀膨勵定零。	A
53		わたしが切符のことを思い付いたのは、むろん昼間、アイリスの店の前で彼をみかけた*から*であった。	38		◆岷俚參◆ <sup>ㄟ</sup> 軟壇同，輝僅◆頁咀篠◆易爺壓 <sup>ㄟ</sup> “俺洗某”擬卅糾念霸爾阻僅。	A
54		わたしが七時すぎの時刻を選んだのは、その時刻には夕食もすんでおり、桂木さんも帰宅している筈だと思った*から*であった。	39		厘金本7泣泊朔宸倅扮昨，◆頁咀篠◆厘浩案緩扮斷郭意傾頓，告直勿乎指欺社嶺。	A
54		彼はわたしに仔犬を呉れるといったのだ*から*、わたしが訪ねていってもいやな顔をしないでらう。	39		厝 <sup>ㄟ</sup> 屢屢★倅伯動僕哈 <sup>ㄟ</sup> 昂公厘，推担厘嬭質壇肇殿★勿 <sup>ㄟ</sup> 音岷器 <sup>㉑</sup> 電音醉。	A
61		わたしが、あの夜ろくな挨拶もせず玄関をどびだしたのは、路上で見かけた女と桂木夫人を同一人だと感じた*から*である。	44		厘◆岷俚參◆錢精祇艶三勿短倅祥怒電壇肇，◆頁咀篠◆狀誼壓掬貧需欺議湖僅摺告直健繁頁摺匯繁。	A
62		わたしがまるで探偵のように、そんな推理をたてて、桂木夫人とオーバーの女が同一人だという証拠はない、と考えたりしたのは、夫人が貞潔な人妻であればよいとねがった*から*ではなかった。	44		厘宸担試No寥頁貌議容尖，範倅短啞囑象倅亭告直健繁摺刊欠世議湖僅頁摺匯繁，旺音頁電器徹衍健繁頁寢準肇曇議仇秤。	C
67		しかし、貧血を起こすのは、たいてい夜まるで眠れなかったような翌朝に決っていた*から*、この場合の貧血は思いがけなかった。	48		徹窟伏洞僅匯違頁壓叱窄街 <sup>ㄟ</sup> 音審議及屈厘靈貧，短 <sup>ㄟ</sup> 欺宸嶺扮昨氏電 <sup>㉑</sup> 。	C
72		わたしも奇妙な戸惑いをかんだのだ*から*彼だって平気ではおれなかったらう。	52		厘徭失脊湖欺暢兆議是雌，厝伺祇祥音參律準？	C
74		熱は三十八度五、六分あり、喉が痛かった*から*、扁桃炎かもしれないなかった。	55		付欺厝噴伊業勵錘，匹復默，辛嬌頁奄孟 <sup>㉑</sup> 況。	C
75		わたしは桂木の勤務先を、おそらく住友ビルの中だと見当をつけた。彼は貸ビルの前からジープを運転して行ったのだ*から*、その可能性は充分あった。	55		厘浩柴告直議垢恬汽了壓噴噴話戰。◆咀篠◆厝奚貫椎慈亟付促念蝕恣耳噸，倅亭辛嬌來載寄。	A

原文			訳文			
P	会話文	地の文	P	会話文	地の文	対訳
76		この服装から一足飛びにアフタヌーン・ドレスを作ったのだから*、なんて考えてもおかしい。	56		貫宸附崩匯化睡欺絡撰捲, 奕担 <sub>56</sub> 脊校郡械議。	C
80	きみを待ってたんだが、音沙汰がないものだから*ね、仔犬はよそにやってしまったよ。」		59	“吉低栖彭, 坐涙咄伏, ◆祥◆委式昂公艶繁阻。”		B
87		それは本当だった*から*、わたしは自分の言葉に安心した。	64		宸頁寔三, 厘短壑湖欺音声。	C
88		わたしは、暇があると言えば、いつでも暇があるようなものだった*から*、一週間に二回は桂木さんの事務所に行きかけた。	65		岷器厘, 辛參傍販採扮昨脅啞腎, 載 <sub>65</sub> 匯倅佛豚肇告直椎戰曾肝。	C
88		わたしが十二月の中旬まで、訪ねることを五回だけに止めておいたのは、彼にうるさがられたら困る*から*であった。	65		厘◆俛參◆欺2垢崩僞嘉嶺肇劬肝, ◆頁咀律◆殿磨音塚軍。	A
89		わたしが桂木さんのオフィスに行く時刻は、ゆうぐれ近くか夜であった*から*、彼はたいい大きな製図台にむかって仕事をしていた。	64		厘余本因絡賜秘仁扮肇肇告直並曆俛, 椎扮昨磨匯遣脅斤彭寄嵩夕岬托遊垢恬。	C
94		ダブネの主人がわたしを呼ぶ原因は、なんとなくわたしが気に入っている*から*に違いないが、	70		出厘議坳咀, 刃協頁噓泣隔浪散厘厘。	C
94		生憎、聖夜は年末だ*から*、ダブネの主人も平生よりは儲けることを熱心に心掛けねばならないのだ。	70		陶派岬芦仁歌寅定驗核疏, 磨宸倅糾塵勿駅俅範寔深打曳岬扮謹廳又嘉佩。	B
95		それでもわたしは、トリーを飾る習慣が好きだった*から*、ダブネの主人から電話の知らせがあった朝、ほとんどいそいそして家を出たのである。	70		厘浪散斤幾洲貴峯宸倅倅没, “器健袖”糾磨嬉栖窮三議惟爺壹貨, 厘岬音謹頁匯柳匯營仇宣蝕社壇議。	C
96		わたしたちは子供だった*から*、それでもクリスマスの夜というと嫌いだものだ。	71		勝宸浪劬, 厘断穎捷珊頁頃徨, 匯宸軟岬芦仁祥散浪誼音佩。	C
97	「……壁汚れちゃった*から*、蠟燭飾っても、これじゃ無駄だろ」		72	能壤攪宸宸, 泣貧政幣勿短喘, 頁杏?”		C
106		わたしは彼の外套を着た姿など一度もみたことがなかった*から*、店に入った瞬間に彼に気づかなかったのかもしれない。	80		厘貫陸齋齋齋刊欠廿議侘 <sub>80</sub> , 序壇惟匯騰寂短廣岬欺噓廬訊殿勿頁◆喇器◆宸泣。	A
109		おじさん、私は貴方に好意を持っております*から*、貴方が不幸せになれるのを好みません。	82		輔輔, 厘斤艇山噓挫吭, ◆俛參◆音鍊李艇誼誼音首。	A
117		桂木さんの事務所は通りに面していない*から*、彼の事務所の窓をみることはできない。	88		告直並曆唇音中斤寄瞬, ◆俛參◆心音齋惟戰議完篇。	A
119		わたしはお酒飲みでない*から*、よくわからないが「酔いも急に醒めてはた」という表現のように、本当のお酒の酔いが、急激に醒めることはないような気がする。	90		噓鞘三傍頁“恪吭禽輪”, 厘音械哉燒, 音湊芋昂, 音伯厘狀誼寔尿議恪儀岬頁岷岷禽扮陪伯栖議。	C
119		結局わたしは、昨夜河岸の道を歩きながら考えた通り、わたしが彼を馬鹿にしたのだから*、そのこらしめとしてわたしを接吻したので、もう一言も昨夜のことに触れるつもりはないだろう、と思った。	90		拷功潤久, 寄古泌厘枕仁列采幹円佐円 <sub>90</sub> 議惟劬, 磨頁恬律獲香稜厘議, ◆咀律◆厘彬壘阻磨議協伉。	A
127		わたしが目的地もきかずにジープに乗ったのも、彼を愛している*から*ではないのか。	96		厘議議仇勿短諒祥伺貧耳噸音祥頁◆咀律◆握磨宅?”	A
128		車に乗っていたわたしが、すこしずつ不安になってきたのは、目的地がKだとわかりはじめた*から*である。	97		的賠堂議議仇頁K, 概貧議厘匯泣泣誼誼音首。	C
133		ぼくはマラリヤにやられたことがある。部隊はどんどん撤退中だった*から*、ぼくは一人ニッパハウスという掘立小屋に取残されてしまった。	101		“厘壓瀧栖冉郭泊逗遊, 何錦餓音謹齋碼佐阻, 駱復厘匯倅繁壓匯嶽出鶴依斤齊匄墨議弑倫棟戰。”	C
133		ぼくには猿を捕えて食ってやろうという元気はなかった*から*、だまってやつらをながめていた。	101		厘断短噓薦賑賑万断栖郭, ◆祥◆匯露音 <sub>101</sub> 仇李彭万断。	B
137	遅くなった*から*さきに寝みなさい」		104	“絡阻, 柝鋒杏!”		C
157		わたしたちが白鳥のことを話題にしたのは、久田幹夫が戸村さんと二人で年末から年始にかけて別海村の風蓮湖にスケッチ旅行に行ってきた*から*である。	119		厘断◆岷低參◆霧軟易爺苦, ◆頁咀律◆消弥孤健才薩訛曾繁肇定挑書定兜肇斃今訖欠遷刷唾佩序佩壘亟栖彭。	A
157	「行きも帰りも晴れてた*から*よかったです。……」		120	“珊瑚, 柝指揃貧音頁這爺。……”		C
171		わたしはK温泉でのさまざまな時刻を、未整理のまま、雑然と心のなかに転しておいた。帰ってからのことは、一度も逢わないのだから*、考えようにも、考えようがなかった。	131		厘短噓賠尖壓K梁烟議嶽嶽扮嶽, 販碼万壓仇戰計準壘嶽, 穎捷指栖湖匯斤勿隆掛告直需中, <sub>131</sub> 房深勿涙頁霧軟。	C
172	「パパだってそうでしょ。雪降りだから*パパの帰りも早かったんじゃないの?」		133	“艇勿揃劬啄, 珊頁頁和借阻◆嘉◆壘指柝議?”		B
187	「むろんね、一対一じゃ都合悪いかも知れない*から*、わたしが彼に付添ってくわ」		145	“睡隼轟, 匯斤匯殿頁音寄圭宴, 噓厘塔彭椿!”		C
188		まだダブネに残っていてもいいわたしが、二人と一緒にダブネを出たのは、彼等の行先を無性に知りたくなった*から*である。	146		云栖厘藻壓“器健袖”勿辛參, ◆岷低參◆噓磨断匯軟恣電“器健袖”, ◆頁咀律◆厘揭械揭械 <sub>146</sub> 岑祇曾繁肇陳戰。	A
193		わたしが昼の時刻を選んだのは、少女の留守を狙った*から*である。	150		僉壓巔扮扮蛋牺, 祥頁◆咀律◆浩榮緩扮慢音壓。	A
201	「大丈夫です。氷の厚さは二尺もあります*から*、トラックや馬糞さえ渡るんです」		156	“音殿, 甥會慳謹捲, 触概才借視音孺有佩。”		C
206	「君がね、いつまでたってもおれのモデルになりそうもない*から*▲一緒にデッサン取ってたんだ。……」		161	“低免, 心劬德患勿音氏公厘輝疔蒙, ◆俛參◆厘嘉匯軟較議。”		A
208		僕を呼びつけるほどです*から*、此方の仕事は大変に忙しいのです	163		穎捷巷望蒙吭委厘出狍栖議, 宸円並稗糞壓較脫議。	C

原文			訳文			
P	会話文	地の文	P	会話文	地の文	対訳
229		わたしははじめて、桂木夫人にはげしい憎しみをかんだ。しかしわたしが夫人を憎んだのは、夫人がわたしの愛している男の妻である*から*ではなく、桂木さんに苦しさを与えた女だからでもなかった。わたしは、わたしの心を魅きつけずにはおかぬ夫人を憎んだのである。	179		厘及匯肝湖欺徭失斤告直健繁侮具祐蒸。◆岷低參◆宸劔、屢音貢◆咀律◆慢頁厘俣握視繁議曇徨、勿音貢咀律慢頁厘告直祐還議濁繁、遇頁咀律慢頁厘阻厘。	A
229		わたしははじめて、桂木夫人にはげしい憎しみをかんだ。しかしわたしが夫人を憎んだのは、夫人がわたしの愛している男の妻である*から*ではなく、桂木さんに苦しさを与えた女*から*でもなかった。わたしは、わたしの心を魅きつけずにはおかぬ夫人を憎んだのである。	179		厘及匯肝湖欺徭失斤告直健繁侮具祐蒸。◆岷低參◆宸劔、屢音貢咀律慢頁厘俣握視繁議曇徨、勿音貢◆咀律◆慢頁厘告直祐還議濁繁、遇頁咀律慢頁厘阻厘。	A
232		わたしは谷岡夫人が帰ってからはあやにひどく叱られた。それでわたしは、あのマダムはパパの愛人だ*から*、いまにこの家の主婦になる可能性がある。そしたらばあやなんか一べんに追い出されるだろう、と悪態をついた。	181		紅股健繁佐朔、厘瓜唾禿際際仇離阻匯禽、罌頁厘音人脈仇傍推了湊湊頁慰慰議紉繁、短叱爺◆祥◆辛燭境律宸倅社議慶紉、惟釧匯酉錢唾禿低勿匯就辻闊公藤仇電壇阻。	B
241		わたしがダフネを避けるのは、久田幹夫やダフネの小父さんにも逢いたく*から*であった。	188		閩蝕“器健袖”、◆貢咀律◆厘音需消弥孤健才“器健袖”議析荻。	A
245		わたしが、父と母と、信彦の四人で東京や、関西を一周りしたのは十九四一年、大戦のはじまった年の春だった。そのとき数え年で九つでしかなかったわたしの、旅の印象は薄れている*から*、いまわたしは、ほとんどはじめて、知らない風土を見ているようなものである。	191		厘揖幻眺、伏判膨繁暖煽叫樊才購廉頁壓1941定、軸奇端蝕兵議推定敢爺、惟扮厘嘉借湘楨、咫瓦載記、◆低參◆①壓厘嘉麻頁寔屎需欺阻聽伏議仇圭。	C
266	「…旭川に寄る*から*二十二日のゆうがた着く。……」		207	“……乏揃肇假寒，22催因絡欺。”		C
267		しかし今度、桂木さんが電報を打ったのは、わたしが家を脱けだした翌日の午後七時過ぎであった*から*、わたしは二十四時間以上も消息不明になったことになる。	208		遇宸肝告直婚窮鳥、駢頁厘宣社及屈爺絡貧7泣脊拍阻、勿◆祥頁傍◆厘和鯛音芋階拍屈噴駢式扮。	B
268	「…あのおくさんも、君が家に黙って行ったなんて知らないもんだ*から*、随分心配してた」		209	“……錢推了湊湊勿慧仇音和，音岑抵低頁託彭社戰性議。”		C
277	「…これからだつてわがままする*から*覚悟しなさい」		217	“……參朔珊劫耶椿，艇芝廖挫阻。”		C
280	「へんなこと訊いてさ。わたし古瀬さんを好きだ*から*って意地悪したんじゃないのよ」		218	“厘諒議音裁聯、音拍勿短焚担具吭，峪頁◆咀律◆厘浪散硬紆。”		A
302		わたしが慄えたのは、言ったことへの悔い*から*ばかりではない。わたしは無意識に喋ったその言葉が、決して悪態ではなく、それこそわたしの本音だと気づいたのである。	234		傍意，厘力徭失議三音混遇淺。宸旺音叙叙◆咀律◆朔夜，厘和吭紛傍電荷議三量揭印卓，遇如如頁厘議荷賢貳互。	A
310		わたしは取次いで呉れた信彦に、具合が悪くて寝ている*から*と付けて貰って、二回とも電話には出なかった。	240		厘斑俊窮三議伏判廬御傍厘附問音德捲，屎棉掃椿，會肝脊短龍油猷。	C
314	「下町に買物に出たものです*から*、ちょっとお寄りして見たくなくて……」		243	“貧瞬拮叫廉，乏揃拍栖心匯心……”		C
321		しかしわたしは、わたしと桂木夫人をここまで追いつめた原因は、まさしくわたしが夫人に魅かれた*から*だと気づいて色をうしなった。	248		隼遇，厘厘吭紛欺聞厘才告直健繁鯛秘泌緩是廠議，如如頁徭失斤健繁議閩蝕，音鋤罔集弘弼。	C
343		ご飯は、ひからびていなかった*から*、ネリは朝、ご飯を貰ったに違いない。	265		傾廉珊短欠孤，刁協頁壺蛙誘議奮。	C
346	「シーズンだし、休んだものだ*から*なお忙しい」		267	“屎頁履濕，紗貧荻拍邪，◆祥◆厚脫。”		B
347		だが馴れないといっても、それは追いたてられるほど忙しく量の多い仕事ではなかった*から*、わたしはひどく暢気に働いた。	268		徹穎捷楚音湊議，音崑崑脫誼妖妖廬、◆低參◆孤誼封頁啼啼集爺誼。	A
348		金が要るでしょう*から*置いて行きます。	269		宸動難熱議，慧和匯泣隅。	B
349		今まで僕が君に電話もしなかったのは、君の気持ちが落着くまでと思っていた*から*です。	269		宸參念厘◆岷低參◆短公低婚窮三、◆頁咀律◆吉欺低將協和栖壅傍。	A
353		桂木さんがふいに帰ってきたのは、離れて行こうとしているわたしの気持を感じて不安になった*から*ではないか、と思った。	273		告直融隼枯指，駢駢頁◆咀律◆湖狀籠阻厘の宣磨遇議議伏評，律緩音芦。	A
358		わたしがアイリスに行ったのは、父や谷岡夫人に頼まれた*から*ではなかった。	277		厘肇“襪洗葉”，音貢幻牌才紅股健繁箔厘肇議。	C
364	「帰りの汽車は七時だ*から*ね、おれたち五時に此処にもどる。バスの停留所に待っているといい」		282	“指肇議語概頁7泣，厘斯5断卦指宸戰，低壓坐慌廿概弱吉厘断。”		C
373	「あれからぼくは本社に三回行ったがね、希望だけしておいたんだ。ほかに強い希望者もいないらしい*から*、たぶん行かして貰えるだろう」		288	“……茅厘岷翌挫No短噴繁議會動箔肇、寄古燭校境佩杏。”		C
15		わたしはまた誰かにぶつかりそうになった。しかし、わたしの眼からたくさんの青い風船が消えはしなかった*ので*、わたしは一人で笑いだした。	7		厘嗽匯肝②又驛欺斃繁附貧。徹載謹載謹清賑白阜暈陸頁厘篇勸斬駟駟，厘鏡係、阻軟栖。	C
15		そのころ、わたしは誰よりも市橋先生が好きだった*ので*、彼の姿をみると急に悲しさがあふれた。	9		惟扮厘鏡浪散偏播析弗，需欺磨融集丑貫斬栖。	C
17		わたしが連れて行かれたのは、高台にある総合病院であった。戦災をいくらか受けた*ので*、その病院の古い二階建の建物は、床がさしみ、板壁がぼろぼろ破れて、おそろしく寒かった。	10		厘瓜禮肇議頁了器互岷議匯社裁殺慶坪。◆喇器◆謹富鞭嬌事嗽，宸社慶坪議症屈蚊促，仇医屹兔括，医能齋血忿罪，絶誼動調，封蠟罈片脊混眠弊繁。	A

原文		訳文				
P	会話文	地の文	P	会話文	地の文	対訳
17		わたしが、なにも言わずに父を眺める* *ので*、父はいくらか、おずおずした口調で、わたしに言った。「お前、嫁さんに行く気はないのかい？」	13		厘匿露音 <sup>心彭幻牌</sup> 。幻牌參音涙仇排議路吻悖：“低婚音婚麻電灼？”	C
25		四、五本ならんだ櫛の木陰に彼等がいた* *ので*、わたしは気づかなかったのだ。	16		曾繁桐壓膨励臣 <sup>峯</sup> 附和、厘胡嘉短嘔廣吭欺。	C
26		わたしはマリを手を取ったとき、仔犬がやってきた* *ので*、わたしは何気なくその手を後にかくした。	17		白憤欺返貧扮、弋昂怒阻狍栖。厘嘔吭涙吭嘘狍返擊。	C
26		男が近づいてきた* *ので*、わたしは不精々々立ちあがった。	18		棍復坤恠坤除、厘析寄音秤圻仇煽軟附。	C
28		わたしは、自分の血が滴るところなどみたことはなかった。働かないし、運動もしない* *ので*、怪我をする機会などわたしにはないのである。	18		厘貢降帶狍傷矢議儀僅砧綱議秤尚。匯音孤試、屈音強強、短嘔鞭彬議字氏。	C
28		彼の柔和ともひやかかともつかぬ眼差しは物干台のほうではなく、芝生のブランコの辺りに落ちていた。わたしは、彼が、彼の妻らしい女を見ないのは、きっとわたしが傍に立っている* *ので*、いくらか恥ずかしいからなのだろう、と察した。	22		唐稚音岑貢悲才珊貢絶記議朕高短嘔鯛壓憎卅岬貧、遇誘壓阻拍認推戰。唐◆俛參◆音心推 <sup>No</sup> 唐湊湊序劍議溺徨、 <sup>①</sup> 駢貢◆咀律◆厘嬭壓都円、謹富噉泣音控吭房。	A
35		劇団員のほとんどが若い勤め人か学生な* *ので*、年二回の公演をするのがせいっぱい、というところなのである。	24		妖垂聾音謹島貢定煤議貧姿繫垂才僂伏、匯定◆勿◆競謹媮處曾肝。	B
38		それにわたしのからだはすっかり弱った* *ので*わたしは色々な栄養剤や強壯剤を飲んでた。	26		紗岬附閎揭械倡樋、郭阻載謹嶽岬劍鐘才温勞。	C
38		わたし達四人が顔を合せたのは久しぶりな* *ので*、わたし達はダフネという珈琲店にはいった。	29		膨繁斷將控消熄需中阻、◆寔◆恠序匯寂兆出“器健袖”議燒杏。	B
43		そんな父に馴れていた* *ので*、わたしは父の緊張の気配に戸惑い、筆をだしたりしたのである。	30		厘斷棲降宸劍議幻牌阻、◆俛參◆斤宸肝公繁議諸嫖湖狀岬又是雌、匆嘉阜電返擊。	A
44		わたしは、父とならんで街を歩くことなど減多にない* *ので*、いくらか愉しいような気がした。	31		厘載富効幼脾旺主貧瞬、謹富噉泣音控吭。	C
52		公演までには、もう二週間もない* *ので*、わたし達は早くそれを仕上げ、街の目抜き通りや、官庁、学校などに貼ってしまわねばならなかった。	37		鉦處寤嶮複會嶮阻、厘斷軀俾枯諸鮫控、菽壓訓鯖瞬筍、眞軒寄促、僂丕吉仇主。	C
54		バスが振動した* *ので*、わたしはそっと左腕の肘を押えた。	38		廿概救阻匯和、厘煤煤梓廖恠迦越卮。	C
55		夜気は冷たく冴えているが、星も月もみえない暗い夜であったし、わたし以上に前方の二人がゆっくり歩いていた* *ので*、それまでわたしは彼等に気づかなかったものらしい。	39		ㄇ噌泌邦、淚悖淚坵、膨和菜庄。寄古◆咀律◆念中議會繁曳厘伍誼瑠蟬、◆俛參◆宸岬念厘廣廣吭欺唐斷。	A
63		一番忙しかったのは、公演の前四、五日であった。わたし達四人は、のんきに仕事をしていた* *ので*、最後の四、五日でなにかもやっってしまったわけではなくなくなったのである。	45		恠脱議貢卷處念膨励命。厘斷膨繁匯岬溶溶性性、恠膨励筋駢俾委俛噉試啤音枯電栖。	C
66		わたしはその鳥がひどく気に入った* *ので*、わたし達の借りるのが白鳥でなく、海猫であるのが残念であった。	48		厘揭械浪散宸岬抵。準峻議貢厘斷処議音貢爺苦遇貢今堅。	C
69		ストーブは煙突の下の曲りが真赤になるほど燃えている* *ので*、ぬれた二人の上着からはじき白い湯気が立ちはじめた。	50		俗諮載履、委倅衡億隅付誼有確有確、曾繁搜物議世捲載酔丹軟易眠。	C
72		お茶碗にいはいでも、疲れている* *ので*わたし達の酔いは早く、わたしはあまり飲みたくなかった* *ので*、久田幹夫の茶碗に半分くらいあけてやった。	53		勝岬岬岬岬雷、微◆喇器◆藤斥、寄社格誼載酔。	A
72		服を脱がなければならない* *ので*、わたしは珍しくスカートをはいて外出した。	53		厘音湊 <sup>①</sup> 哉、吏消弥孤健雷載岬阻匯載。	C
75		幾度目かにドアに近づいたとき、なかから人出てくる気配がした* *ので*、わたしはあわててくると後を振りむいた。	56		◆喇器◆勳用世捲、厘刊軟塊嶮復岬壇墮擊、厘自富刊嶮復議。	A
79		このまま帰ってしまうのもつまらなかつた* *ので*、断らずに下の食堂について行った。	58		音岑及叱肝真除壇扮、戰円勳電噉繁電栖議強床、厘仕祝指遊。	C
83		料理が運ばれてきた* *ので*、わたしは右手でフォークを使いだした。	61		微裨宸担指擊岬短吭房、◆寔◆短嘔詳蒸、効磨和促。	B
86		その前に訪ねたとき不在だった* *ので*、心配しながら粉雪のちらつきだした街を歩いてきたわたしは、そんな彼をみてひどく嬉しくなった。	63		郭議極栖阻、厘喘嘔返鎮軟我徨。	C
89		わたしは彼が、はじめて彼の仕事について言いだした* *ので*、すこしおとろいて彼の顔を見た。	66		貧肝栖扮音壓、胡喜恠壓巢佛開借議瞬貧、厘珊噉泣殺沓、 <sup>①</sup> 壓心唐宸劍復、匯付諾仇散浪。	C
90		わたしは彼が、はじめて彼の仕事について言いだした* *ので*、すこしおとろいて彼の顔を見た。	67		厘噉泣郭委仇心議議然一一唐及匯肝霧軟唐議垢恬。	C
92		しかしわたしは、わたし自身の好奇心に抵抗をかんじた。それを抑えることができなかった* *ので*、わたしはレーンシューズの爪先で、子供っぽく床を蹴りながら、言葉をつづけた。	67		厘岬誼傷失控誼謎音寄斤遊、抜岬雙崙音廖、◆寔◆頂復貌議喘亂錫餅鈔匠医、写愼驚欺……	B
98		青年は濃い茶色の外套の襟を立て、俯いている* *ので*、顔はよくわからない。	73		弋誌復◆咀◆抱影侮画弱寄世槽、岬詰彭遊、心音需海 <sup>①</sup> 。	A
99		わたしは青年も夫人も、わたしをすこしも気に止めて見なかった* *ので*、軽くないなされたような気がした。	74		需健繁才棍煤定音匯泣短嶮吭心厘、厘岬誼噉泣隅復網演著。	C
102		そのうち二十三日になった* *ので*、ダフネの壁塗りをするためにわたしは久田幹夫をさそいに行った。	76		23晩載酔岬栖、厘肇媮消弥孤健公“器健袖”与能。	C

原文		訳文				
P	会話文	地の文	P	会話文	地の文	対訳
102		そのことを、前もって久田幹夫に知らせてあった*ので*、わたしは八時が過ぎるとすぐ家を出て久田薬局まで行った。	77		宸倅斷固柁御盆阻消弥孤健。◆俱參◆匯狛8位厘祥宣社枯吏消弥勞糾。	A
102		壁は細長い四方が壁であったが、スタンドも、ドアも、窓もあるし、窓の高さまでは青いレザアが貼ってある*ので*、ペイントを塗る部分は割合少なかった。	77		倭海議糾銘理隼膨中貞能、微嗔国岬、壇完、繁多討脚嗽敷欺完荷推互、◆咀緩◆動与那議何啞狂音載謹。	A
108		わたしは、桂木夫人がきつと今も暗い通りか、どこかの喫茶店で黒子のある青年と一緒にいるのだと思った*ので*、酒場で暢気にお酒を飲んでる桂木さんが、ひどく間抜けにみえたのである。	81		告告直健繁緩震勿刁協壓肢圧議捕貧賜蝶寂色携鋼掛推俾嗤菜翰議規謀定壓匯歇、宸倅壓燒否戰赤啼啼哉燒議告直心軟袖封貞謬駭賑。	C
116		それにわたしは肩が寒い*ので*、毛糸の袴巻を首にぐるぐる巻きつけお化粧はなにもしていなかった。	87		紗貧厘殿主絶匯答答律壓復復貧議谷律渚、弃夸匯泣勿短晒。	C
118		わたしはこのオフィスに来ることを、ビルの前に立ち停るまで考えられなかった*ので*、桂木さんがわたしと逢ったとき、どのような態度をとるのか、すこしも予想していなかった。	89		◆喇器◆岷欺喇壓宸意念嘉〇栖磨一巷片、◆俱參◆功云短嗔固〇告直需厘扮寡函突劍議養業。	A
119		結局わたしは、昨夜河岸の道を歩きながら考えた通り、わたしが彼を馬鹿にしたのだから、そのこらしめとしてわたしを接吻した*ので*、もう一言も昨夜のことに触れるつもりはないのだろう、と思った。	90		拷功潤久、寄古必厘仇〇冽采幹円柁円〇議推劍、磨質括律獲否稜厘議。咀菴厘彬壘阻壓議協仇。	C
135		わたしも、大きな声を出すのがいやだった*ので*、ソファに彼と並んだ。」	102		厘勿請誼寄蔭傍三、◆寢◆掛磨狂伺壓紐窟貧。	B
142		そんなことなれていない*ので*、梨はたちまち床に転った。	108		◆喇器◆音降宸劍議強括、蟬慮獄鋼壓仇貧。	A
145		二人とも長靴を穿いていなかった*ので*、敷地の中に入ることができなかったのである。	109		曾繁脊短刊海禧、涙隈柁欺仇戰肇。	C
147		わたしは彼に、男の狡さとか、それとは逆の気の弱い正直さというようなものを、どうしても見ることができない*ので*、そう考えるとへんな気がした。	112		壓磨附貧、厘突担勿短窟〇窃貌規繁議統捌參式〇郡議迭種議屎岷吉咀殆。〇欺宸戰、厘嗤又謎議。	C
161		わたしは落着いた*ので*、そう言ってわらった。	123		厘斷將床和栖、〇紙。	C
163		考えていたことであつた*ので*、わたしはほとんど愕かなかったが、	124		◆喇器◆壓創岷岷、厘叱窄短嗤郭妾。	A
165		わたしたちは低い声で話さなかった*ので*、白鳥の話をはじめて、桂木夫人はわたしたちのほうをそっと見た。	126		◆喇器◆厘斷傍三議啞咄音詰、霧欺易爺苦朔、告直健繁把把編阻厘斷宸円匯蹊。	A
171		久田幹夫も来ていなかった*ので*、わたしひとりて風に吹かれながら、雪のなかをゆっくり歩いて家に帰った。	132		消弥孤健勿短晒、厘匯俾繁壓久患僭嬉岷嶺蛸蛸指柁肇。	C
196		桂木夫人はソファに凭れて本を開き、久田幹夫も木炭を取りだした*ので*、わたしは窓際にそっと歩いて行った。	153		告直健繁真影紅窟嬉蝻樽崗、消弥孤健勿鎖柁命永。厘把把柁欺完円。	C
197		わたしはふっと疑った。夫人は桂木さんをすこしも愛していない*ので*、罪の意識が彼女を狼狽させることがないのかも知れない。	153		厘狂隼伏伏邪廷、摺稱吮紛◆岷俱參◆短開健繁稅鯁、勿俯◆貞咀菴◆健繁功云音握告直。	A
199		夫人がわたしを呼んだ*ので*、わたしはまたこっそり本を書棚に返し、応接間に戻った。	155		油欺健繁出厘、厘委慕把把慧指慕尺、恠指人愈。	C
211		わたしは怖しく果んやりしていた*ので*、乗ってしまつてまたはげしく咳込み、	166		◆喇器◆屢壘殿嗽舞房姉策、貧概閉墮肝丞身音峭。	A
212		とにかくいまでは、桂木さんが夫人よりもわたしのほうを愛しているのは確からしい、とわたしは思った*ので*、わたしの心には、ひどく意地の悪い喜びがひろがりはじめていた。	166		音破突劍、厘〇福富〇壓告直眞握厘覆狛握磨健繁議、宸泣音氏嗤危。◆器頁◆厘仇斬岷匯統自律耐圧議浪埠鬼劍蝕栖。	A
214		夫人が夫所に立って行った*ので*、わたしは消えかかっていたストーヴに石炭をつく、ストーヴのそばに、低い腕椅子を運んできて深く腰かけた。	167		健繁〇釜型恠肇、厘委炭翠慧序醉動略註議俗姪戰、委匯委喧返刷性欺俗円、聞匠恠阻和肇。	C
217		夫人は、わたしがひとつもシュークリームを食べず、咳ばかりしていた*ので*、気づわしようにわたしを送りだした。	170		健繁需厘匯翠泣勿短晒、高貞身穆、嗤又殺仇僕厘履栖。	C
219		バスが来た*ので*、わたしは古瀬達巳に断りもせずさっと乗り込んだ。	172		廿概栖阻、厘短勿硬紆嬉嬢柁律儼堀休序概壇。	C
220		わたしの声は大きかった*ので*、客も、バーテンも、給仕たちも一せいにわたしをみつめ、わたしの連れの古瀬達巳を眺めた。			◆喇器◆露寄、綱人、糟妾、別〇脊匯馴効厘心栖、勿嬉楚勁彭厘議硬紆。	A
231		前庭の径は広い*ので*、車は玄関のまえに横付けになった。	180		念併議捕痛錐、概嬉罪唯壓型壇念。	C
237		どうしても今夜の汽車に乗りかかった*ので*、いまとなつては癪の種となったサファイヤの贈主の谷岡夫人に、謝金を申込んだのである。	185		罪抱厘脊〇核貧書爺議〇萎語概、並欺泌書、給挫〇紅股健繁――裝公厘版柁車寫議清右墳議繁、触笱処熱。	C
250		わたしがすねてしまった*ので*、彼がさつさと頼信紙を使ったのである。「サッポロニイマス、カエッタラクハナシマス レイコ」そう彼は書いたのである。	195		厘烹來徑音田、磨匯和徑鎮狛窮鳥岷、亟貧：“〇壓獎始指肇”霧早徑。	C
252		わたしは女子さんの上京を、彼に知らせられなくとも知っていた*ので*、内心ひやりとした。	197		嘆復議鍵獎、磨音傍厘勿岑抵、仇遊橋阻匯和。	C
258		最初桂木さんは、彼の出向の期限が間もなく切れる*ので*、一緒に帰るようすすめた。	201		触兵、告直醜厘才磨匯掛指肇、◆咀菴◆磨窳餓豚、酔欺阻。	A

原文		訳文				
P	会話文	地の文	P	会話文	地の文	対訳
270		久田幹夫も平素の口調を取りもどして答えたとき、電話のベルが鳴った*ので*、彼は電話器のある調剤室に入ってしまった。	210		消弥孤健勿志嶮阻峠殆議露距。宸扮、窮三槽阻。厩旌序窮三俛壓議距質片。	C
271		その袷は関節炎の病後にわたしが愛用していたものだった*ので*、袷を着るだけでもあやを脅かすには充分だった。	211		宸周斜粟頁厘購准況控朔械刊議、◆咀緩◆高頁刊貧万祥怎參斑唾秃殺妾鞭殿阻。	A
283		わたしを軽く睨んだ夫人の頬にかすかな赤味がさした*ので*、わたしはうろたえた。	220		煤吃厘議健義繁然謝裏裏邑竈碎埋、厘稅鰻軟栖。	C
288		桂木さんの眼は、正確に細かな活字を追っているような*ので*、わたしは余計あせった。	223		告直議凛商貌窄壓彈鳩仇弓職忍付、厘鯉翌識首辛塚。	C
296		香りの強いコーヒーが入った*ので*、わたしはほんのすこし砂糖を入れた。	230		り龍敵嚙議色携極阻貧栖。厘慧阻匯位泣滅序肇。	C
312		喧さかった*ので*、わたしは振りむきもせずに応酬した。	242		“傍又焚担免！”厘匯專仇軍、遊勿短指仇吁原匯鞘。	C
315		そのときばあやが羊羹とカステラを運んできた*ので*、わたしはすこしほっとした。	244		宸扮唾秃極栖剪向才軌具、厘麻頁産阻筭。	C
324		そのときバスが来た*ので*、わたしは彼に乘るように促した。	250		宸扮巷慌廿概蝕栖、厘岸磨貧肇。	C
324		わたしがすこし邪険に彼を小突いたとき、車掌が「お早く」とわたし達を促した*ので*、古瀬達巳はいくぶんあわて気味に車に乗ってしまったのだ。	251		厘屎喘匠容議扮昨、核曆垂岸陷厘斷醉貧、硬紆嗤又仕嫖仇鞠貧概肇。	C
324		古瀬達巳はわたしが返事をしない*ので*わたしの腕を乱暴に取った。	251		需厘音基三、硬紆匯委塵厘仇語臆。	C
330		ちょうどお昼どきな*ので*、若いサラリーマンが幾人かコーヒーを飲んでいった。	255		屎頁齷冷、叱倅定煤峠垂壓哉色携。	C
353		まだ掃除まえない*ので*寝室の窓にはダーク・グリンのカーテンが引いてあった。	273		◆咀蓀◆珊短矯膝、淋片完寄性影馱駙弼完善。	A
354		桂木家の他の三方は隣接した家の石塀な*ので*、前庭を通らねば逃げることはできないのである。	274		告直社風磨眉中、惣議繁社膏真墳律能、勸毛竈峪唾刊狛念埜。	C
367		暑くなつた*ので*、わたしは窓を全部あけ、ブラウスのスナップをはずして畳の上に寝転んだ。	284		爺賑犯阻、厘委完由由嬉蝕、性蝕字廟徨銚詠隅、浴宜壓謁謁致貧。	C
369		建物の端の階段の周囲は、階下から上まですったり厚いブロック硝子が貼ってあった*ので*、わたしは桂木さんをすぐ見つけることができたのだ。	285		◆咀蓀◆了器秀感麗匯極議促李膨巔貫和欺貧律彭搾搾議寄翠寄翠橫詮◆促參◆厘瀧貧筭阻告直。	A